

浜須賀地区で、浜須賀地区防災都市づくりワークショップを開催しました

第4回 浜須賀地区防災都市づくりワークショップを開催

第4回ワークショップでは、前回考えた浜須賀地区でできる具体的な取り組みをもとに、今後地域で進めていきたいこと、できることを整理したアクションプログラムを作成しました。
第3回ワークショップに続いて、第4回ワークショップでも浜須賀中学校の生徒さんにご参加いただき、幅広い議論が行われました。

中学生による発表

第3回ワークショップの結果をうけて、浜須賀中学校の生徒のみなさんが事前に学校で話し合ってきた内容を、発表してくださいました。

テーマ：「地域の良いところ、危険なところ」「今後の取り組み」



<第4回WSの内容>

日時:12月3日[土] 13:30-16:00

場所:浜須賀会館

参加人数:61名

- ★中学生による発表
- ★グループ討議
 - ・浜須賀地区で進めていきたい取り組み
- ★発表

●良いところ

- 昔から残っている松の木が魅力的
- ラチエン通りなど深い歴史があり、有名である

●危険なところ

- ハザードマップだけを頼りにしてしまうと、津波の襲来が想定されていない地域の住民が油断して行動が遅れてしまう

●今後のとりくみ (個人でできること)

- 自分の地域が災害時にどのような状況に陥るかをよく知り、自分がどのような行動をとるべきか考える
- 家族と話し合ったり、自分で情報を集めるなどして、避難の時に落ち着いて行動できるようにする
(浜須賀中学校の活動として)
- 中学校に避難してきた人がスムーズに行動できるように、校内の案内図を作成する

アクションプログラムを作成&発表！(1/2)

1班

～自分たちの身は自分たちで～



こんなことをやりたい！ こんなことをやるべき！	時期		
	1年以内	2～3年	4年～
●地域住民の意識向上 ・防災に係るアンケートを実施、結果を公表、みんなで取り組みを検討 ・まず家族から「声かけ」、「話し合い」を実施 ・サークル活動を通じたコミュニケーションづくり (例：太極拳、ストレッチ、お茶会)			
●要援護者の見守り ・安心カプセルの普及、被災時に無事な世帯は玄関先に黄色いハンカチを掲示 ・緊急通報装置の設置 ・市庁舎の建て替え時にコミュニティFM局を設置(市へお願い)			
●自治会相互の情報共有 ・先進的な自治会と情報共有する ・浜須賀地区防災都市づくりワークショップの結果についても情報共有			
●行き止まり標示の設置 ・誰がやるのか考える(今後の課題)			

2班

～まちづくりは人づくり～



こんなことをやりたい！ こんなことをやるべき！	時期		
	1年以内	2～3年	4年～
●回覧板をピンポンで渡す運動 ・ゆるやかなルールをつくって、すぐにやってみる ・手渡しすることで、あいさつがしやすくなる			→
●情報発信の多様化 ・情報伝達の方法を増やそう(SNS、ツイッターの活用) ・今ある情報伝達方法にも防災情報をのせる (回覧板、イベントのときの配布物など)			→
●今までと違う防災訓練(地域行動) ・自治会単位、子ども、要支援者などニーズに応じた 細やかな防災訓練をやってみる			→
●自治会をまたいだ取り組み(活動の連携) ・地域清掃やパトロールなど自治会をこえた取り組みに広げる ・避難経路の確認をすることで今後の対策に何が必要かわかってくる			→

3班



こんなことをやりたい！ こんなことをやるべき！	時期		
	1年以内	2～3年	4年～
●隣近所のコミュニティ再構築 ・隣近所での情報交換や日頃からのお付き合いをする ・イベントに防災要素を盛り込む (もちつき大会で防災倉庫を確認、体育祭で啓発等) <子どもからの防災教育～子どもを巻き込み、子どもを通じた親の交流促進> ・防災を含めた話し合いの場に子どもも引き込む →貴重な子ども視点での意見が聞ける ・楽しみながら防災体験できる取り組みを工夫する			→
●避難場所、避難路の確認・改善 ・避難所の情報確認と危険ルート改善を行う ・新たな避難場所を確保する(郵政省、静岡銀行宿舎など) →行政の力が必要			→
●発災時の安全確認 ・避難時の伝達方法として、玄関に掲示するメッセージカードを活用する			→
●情報共有・啓発 ・自治会間での情報交換を行う ・ガスの元栓をしめて避難することなど基本動作を確認する			→

アクションプログラムを作成 & 発表！ (2/2)

4班



こんなことをやりたい！ こんなことをやるべき！	時期		
	1年以内	2～3年	4年～
●WSの話し合いを地域へ広める場 ・発表会や子どもを通して親へ伝える ・1回ではなく、繰り返し開いて広めていくことが大切	→	→	→
●自分の身を守る ・専門家、コーディネーターに協力してもらう	→	→	→
●早く確実な情報入手 ・テレビ、メール、安心カプセルを活用する ・具体的な内容を書いた緊急時の“行動マップ”を作成する	→	→	→
●若者の巻き込み ・イベントを通じて、防災の重要性を伝える ・要援護者への協力 防災リーダーへ	→	→	→

※行政への要望…防災担当だけでなく、関連する部署にも伝わるように行政内の横の連携をとって調整を

5班(中学生班)



こんなことをやりたい！ こんなことをやるべき！	時期		
	1年以内	2～3年	4年～
●防災まつりの開催 ・小さい子にも楽しみながら防災を学び、意識を高めてもらう 中学生…企画、呼びかけやりたい	→	→	→
●あいさつをする ・地域の人と知り合う→非常時のスムーズな行動につながる 中学生…回覧板の活用、自らあいさつ	→	→	→
●校内の避難地図 ・普段学校に来ない人が避難時に困らないように 生徒会ですぐに作りたい	→	→	→
●中学生消防団 ・呼びかけや、火事の危険さをアピールする	→	→	→



発表後のコメント

東京大学 加藤先生

- 青木会長が仰っていた“新しくて古いまち、古くて新しいまち”に関連して、古いまちならではの潜在力と新しいまちならではの活動力という両方の良い面が出てきて最後のアウトプットに繋がっているという気がしました。
- 個々にすぐにできそう、あるいは長期的に目指すものとして素晴らしいアイデアが出ました。
 - ①防災だけで何かをするのではなく、別の目的をやりながら防災も考えていく
 - ②新住民と旧住民のだけでなく、いろいろな世代での連携や中学校と地域の連携、さらには自治会間の連携。こういう人のつながりが地域力になっていくという意味で、連携というのが重要なキーワードになっている
 - ③ここで議論したことを地域全体で共有していく必要がある。という3点が共通のアイデアでした。
- 今後、議論したことを地域全体で共有できれば、素晴らしいスタートラインに立てるのではないかと思います。



浜須賀地区自治会連合会 青木会長

- 3月の東日本大震災が発生して、それに合わせて津波という問題が今回ほど大きくなったことはありませんでした。年度内の2月26日に中学校の体育館を借りて県の発表を含めたお知らせがあり、その時にはある程度津波に関する指針が出ていると思いますので、よろしくお願ひします。
- 今日出席された方は、ここでいろいろな発言をし、他のグループの発表も聞いているので、これで終わりにするのではなく、皆さんは自治会においてもリーダー的な方々ですので、今後も話し合いの際にはいろいろとお話いただきたい。
- 連合会長を長くやっていますが、こういうことを要求されているんだといろいろと勉強になり、今後の防災についても皆さんと一緒に乗り越えていこうと感じました。
- 皆さんが、今日のことを出発点にし、これからも防災まちづくりについて運動されることをお願い申し上げます。

第4回防災都市づくりワークショップの感想

●今回のワークショップをスタートラインとして！

- 今回のワークショップを通して、様々な地域、自治会のお話を聞くことができ、とても参考になりました。これで終わりではなく、今後も防災について考えていきたいと思いました。ありがとうございました。
- 活発な意見交換が出来たと思っている。防災意識の高まっている今、機会をとらえて地域の活動とPR、協力要請を進めるべきである。行政、近隣自治会と協力して同じレベルの防災活動が出来たら良いと感じた。

●小さな事から（すぐ出来ること）の積み上げと前進あるのみ！

- 今回、4回のワークショップに参加させていただいて、私自身が一番勉強になりました。家庭の中にしっかり持ち帰り、まずは家族の意識レベルを整え、家族の和、協力を強化していきたいと思います。そして、この地域に住む一人として、地域づくりに少しでも力になれるよう意識したいと思います。
- 各個人の意識レベルを上げさせることが重要であることを実感しました。
- ハード的なものは容易に実現出来ないことが多いでしょうが、ソフト面では当自治会で早速取り上げていきます。少しずつ少しずつの積み上げと、前進あるのみです。
- 大きな事を考えずに、小さな事から（出来ること）実行に移していきたい。

●その他

- 防災については共通点が多いが、一方で地域による考え方の特徴も十分理解できた。浜須賀地区といっても、マンションを抱えている自治会、マンションだけの自治会、集合住宅の少ない自治会、等々あり、それによって住民の防災に対する意識が皆、違います。意識は違ってても自助、共助の部分については、やはり住民に啓発活動を行うことが必要です。個人的には、共助の部分をしっかりと地域でやっていかなければいけないと考えます。
- グループ討議の中で防災ワークショップを、新しい人にも呼びかけて、通年で行いたいと意見がありました。
- はじめはこのワークショップの意味がやや不明の点がありましたが、4回の話し合いと、実地検分を通じて、よく見えてきました。要は人づくり、街づくりなのでしょう。

●中学生の感想

- 3月11日の大震災の体験とテレビで見た津波の光景、まち歩きの際に自分の目で見た「まち」、そしてこの「防災都市作り」の討議で話したこと、聞いたこと、そして結果を、これからいつ起きるかかわからない地震やその他の災害に対して活用し、あの3月11日の悲惨な結果を二度と起こさないようにしたいと思います。
- とても意義のあるワークショップでした。これから色々な人の意見を聞いて、アイデアを出してもらい、一歩一歩、取り組んでいきたいと思います。課題はまだです。防災訓練等の見直し、近所の人との親睦、情報が大事だと思います。これからもご協力をお願いいたします。
- 4回にわたるワークショップの中で、いくつも興味深い発見がありました。防災について地域との関わり合いがとても重要なことだと自分は考えます。生徒会本部として、少しでも力になっていければと思います。この活動を中学の中、そして地域に広めていきたいです。
- 今の地域に必要なことを話し合うことが出来て良かったです。改めて地域の方との交流が大切だと感じました。普段から、交流をすることで、災害の時など協力し合えると思います。具体的にやりたいことを話し合い、実行することで、校内の生徒には、さらに災害への関心を持ってもらいたいです。加藤先生の話や、地域の方々に私達中学生の意見に耳を傾けてもらえて、とても貴重な体験をすることが出来ました。
- 私はできることからやっていくのが大切だと思うので、まず学校内でも行っているあいさつを地域の人にもできるようにしたり、避難地図を作成するにあたってもう一度、校内の避難経路を確認するといったのではないかと思います。
- 今日のワークショップで、一番印象に残ったのは、「中学生消防団」でした。本当に火を消したりはできないかも知れないけれど、呼びかけなどで行動すれば、すぐく役に立つんじゃないかなと思います。
- 防災祭や中学生消防団は、中学生だけでは難しいので、実現に向けていろいろな人と関わっていき、よりよい都市づくりが進めていければいいな、と思いました。
- 「校内の避難地図を作る」という意見で、私も実際にこの前の地震の時に避難所に行ったんですが、意見が出ていたとおり、どこに行ったらいいのかすごく分かりにくかったので、マップがあったら避難がとてもスムーズに出来て良いと思いました。ワークショップでやったことは、これからも大切にして、ずっと忘れないでいきたいと思いました。
- 今日のワークショップで一番印象に残ったことは、目的や表向きは一見違うように見えても、本当の趣旨は防災であったりすることです。これは、実際の議論でも自分自身大切にしようと思った事だったので、今後の活動で活かしていけたら良いなと思います。
- ワークショップでは言わなかったことなんですけど、ペットも入れる避難所が出来たらいいなと思います。